

天然記念物として保護されてきた鹿。  
有害獣として駆除の対象とされてきた鹿。  
奈良の鹿をめぐる問題を、対立ではなく対話によって解決するために。

問題点の一つ

「鹿の増えすぎにより危機に瀕する森林」  
についての一考察を次に示します。

【鹿により危機に瀕する森】 春日山原始林

春日大社の聖域として、110年以上守られてきた春日山原始林。天然記念物に指定され、世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産でもある、文化的価値の高い原生林です。  
狼や野犬が消滅したこともあってか、鹿による下層植生の過剰な食害が進行しており、ナラ枯れの発生や、外来種ナンキンハゼの侵入も確認され、危機に瀕しています。



昭和46年(1971)撮影  
写真撮影：厚見昌彦氏  
画像編集ソフトでカラー化



令和6年(2024)撮影  
左写真のように、1971年下層植生に覆われていた幹が露出

春日山から流れ出る水谷川は、かつては雨の後でも濁ることはなかったと言われていたのですが、近年では下層植生の減少によって、雨が直接土壌に当たるようになったためか、まとまった雨の後には濁るようになっていました。土壌が流出することでますます倒木が起りやすくなり、山が崩れ始めている様子が確認できます。



昭和46年(1971)撮影(原画)  
写真撮影：厚見昌彦氏